

令和元年度関東高等学校男子バスケットボール大会 兼 第73回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会

令和元年6月2日(日) Aブロック 決勝 富士北麓公園体育館 Aコート 第4試合

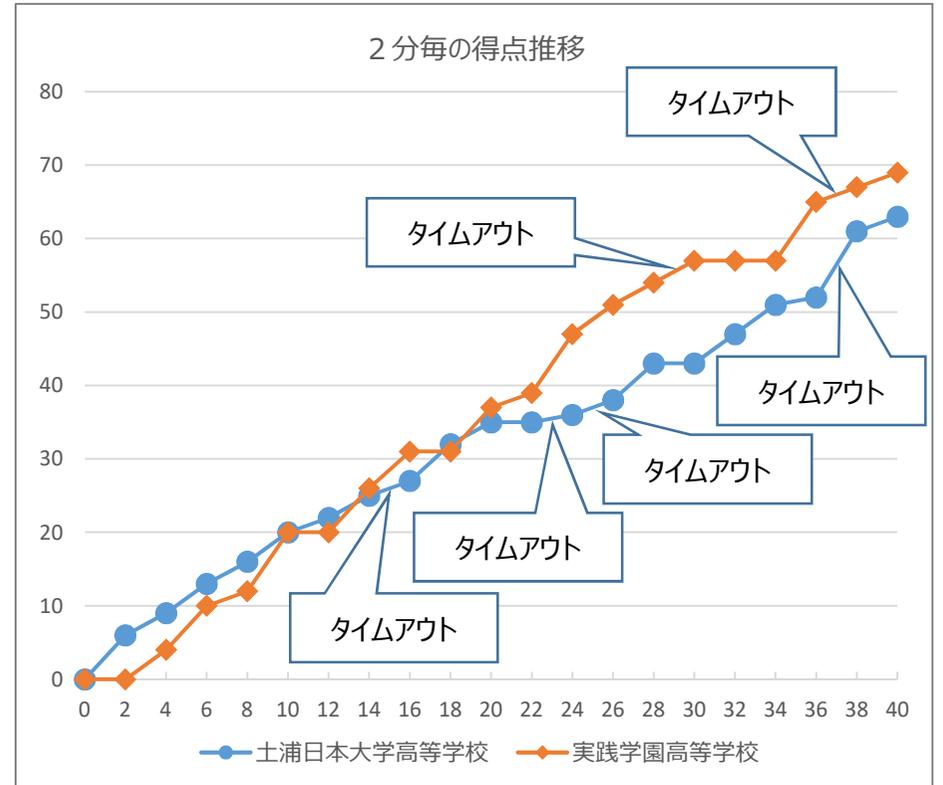
チームA		20	1st	20		チームB
土浦日本大学高等学校 (茨城県)	63	15	2nd	17	69	実践学園高等学校 (東京都)
		8	3rd	20		
		20	4th	12		
		OT				

Aチーム： 土浦日本大学高等学校

	S	No.	氏名	PTS	3P FG		2P FG		FT		F	REBOUNDS		
					M	A	M	A	M	A		OR	DR	TOT
1	*	4	陳岡 燈生	18	2	8	5	12	2	2	2	2	4	6
2	*	5	結城 智史	8	0	3	3	6	2	3	2	4	8	12
3	*	6	吉田 凜	3	0	0	1	5	1	2	0	1	1	2
4	*	7	山内 龍也	12	0	0	4	10	4	8	0	2	5	7
5		8	松尾 凌平											
6		9	神 魁杜	8	2	6	1	4	0	0	5	1	2	3
7	*	10	鍋田 亜廉	12	2	15	3	4	0	8	0	1	3	4
8		11	中崎 翔月											
9		12	小森 颯太											
10		13	松村 竜吾											
11		14	澤 浩己											
12		15	郷 歩夢	2	0	0	0	2	2	2	0	1	1	2
13		16	植田 悠貴											
14		17	品田 真吾	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15		18	佐藤 翼											
HC/TEAM				佐藤 豊文							2	3	5	
合計				63	6	32	17	43	11	25	9	14	27	41

Bチーム： 実践学園高等学校

	S	No.	氏名	PTS	3P FG		2P FG		FT		F	REBOUNDS		
					M	A	M	A	M	A		OR	DR	TOT
1		4	五島 大成	3	1	2	0	0	0	0	1	0	2	2
2	*	5	堀内 海利	4	0	0	2	5	0	0	0	2	3	5
3	*	6	小野寺 恒洋	12	0	1	6	11	0	0	1	0	6	6
4	*	7	江原 信太郎	17	1	5	7	15	0	0	5	3	8	11
5	*	8	山口 浩太郎	21	3	7	6	9	0	0	5	1	5	6
6	*	9	井川 広登	5	0	1	2	3	1	1	2	0	4	4
7		10	海貝 太一											
8		11	坂田 玲磨											
9		12	小宮山 駿帆											
10		13	近野 零士											
11		14	松下 瑞季											
12		15	山本 真											
13		16	本間 合											
14		17	新井 翔太	3	1	3	0	1	0	0	1	0	3	3
15		18	家永 淳之介	4	0	0	2	9	0	2	0	3	2	5
HC/TEAM				高瀬 俊也							1	1	3	4
合計				69	6	19	25	53	1	3	16	10	36	46



戦評

記事者：古田 厚司 (山梨県高体連)

土浦日大2-3ゾーン、実践学園マンツーマンディフェンスでスタート。立ち上がり土浦日大は、#4、#10の連続3Pで主導権を握るが実践学園は4分過ぎから#6、8の連続シュートをきっかけに追いかける。土浦日大はディフェンスをチェンジしながら得点を伸ばしていく。実践学園は#8の3P2本を含む5連続ゴールで追いつき20-20で1Qを終了。

2Qは一進一退の攻防が続く。5分過ぎに実践学園#7が連続ゴールで31-27とリードをする。流れをつかみかけたが土浦日大#9が3Pと#5からのバックアップの連続ゴールで逆転。再び振り出しに戻る。2Q終了間際、実践学園の#7が連続ゴール、更に#6がブレイクからレイアップを決め37-32と5点リードするが土浦日大#9がブザービーターの3Pを決めて37-35、実践学園リードで前半終了。

3Q立ち上がり土浦日大はドライブインからキックアウトでシュートチャンスを作るもシュートが決まらない。実践学園は3連続ドライブインを含めた5連続ゴールで47-36とリードを広げる。土浦タイムアウト。メンバーを変えてディフェンスをチェンジしながら流れを掴もうとする。#4の3P、#10レイアップシュートで54-43と差を詰めるが実践学園はタイムアウト後#4が3Pを決めて57-43で3Qを終了する。

4Qがスタートして実践学園の得点が止まると土浦日大は#4の3連続ゴールと#7のレイアップシュートで4分過ぎには57-51の6点差まで詰めるが実践学園は#17の3P、#8の連続ゴール、更に#7がジャンプシュートを決めて残り3分38秒、67-52と15点差とする。土浦はタイムアウト後、#4のドライブインから#5がゴール下で決めるとオルコートでプレッシャーをかけターンオーバーを誘い、得点差を縮める。残り1分5秒には#4がフリースローを2本決め、67-63の4点差まで詰めるが実践学園は#18がゴール下のシュートを押し込み69-63となる。土浦日大はシュートを打つつも決まらずタイムアップ。69-63で実践学園が勝利した。

主審	第1副審	第2副審
安西 郷史 (埼玉県)	小澤 勤 (山梨県)	眞榮喜 工 (指名)